



TITLE:

支部通信

AUTHOR(S):

CITATION:

支部通信. 天界 1936, 17(188): 85-88

ISSUE DATE:

1936-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167367>

RIGHT:

支部通信**京都支部・京星會だより (10月)**

清爽の秋、よく晴れた夜が多く新星の續出。金星、木星、土星の配列と空は大賑ひ。シーズンの真中であり事業は豫定の通り次々とは行はれた

○會誌「京星」第11號 本年度から會と會員に關する記事を全部「星光」に移して純天文誌となつた「京星」の第11號は豫定通り20日發行された。内容は次の通りで43頁、100部發行、尙附録として黒色厚紙に白自で印刷された美麗な觀測用アルゴル變星圖がつけられた。

私の部分日食撮影—清水眞一、ハレ！彗星回顧豫考—佐々木正、土星の環、地球に接近する天體—藤田和也譯、地球の流星の衛星、宇宙線とは何か？—佃泰三譯、太陽と遊星との距離の記憶法—藤田和也、青寫眞の作り方—吉澤覺文、正確なビントの決め方—吉澤覺文、火星面スケッチについて—前田治久記、燈臺星アルゴル—佃泰三、小望遠鏡に面白い秋の星—高井博典、反射鏡の鍍銀法—西森菊雄、天文雜報。

○「同報」第7號(16日) 蜥蜴座新星・蟹座新星・射手座新星・Jackson 彗星の位置、發見日時、發見者、發見以來の光度觀測。第8號(21日)蟹座に再度新星發見、第4回合同ハイキング、事業豫定、會員に關する報告。第9號(21日)會の進展と將來に對する依頼。

○「天文の夕」社會教育的な奉仕事業として年に1回催す事になつた天文の夕(天體觀望會)は24日(土)夜二條公園に於て開催された。詳細は別記の通りであるがこの催を開くに當つて、公園使用のための京都市及び警察への手續、一般へ發表のための各新聞社への交渉、諸種の印刷物の準備、望遠鏡の運搬提供、寫眞や解説圖の借入及び陳列等々何一つの手落なく計畫通り順調に進められた事は會の甚だ誇りする處で、これは9名の幹事に加へて10餘名の會員の完全な協力によつて初めてなし得た處である。

○10月幹事會議 第3年度第1回定時幹事會議は21回(水)19時より吉岡久男氏宅で8名の出席者により開かれた。本年度より各種事業の詳細は各部長を中心とする部に於て決定する事となり、幹事會議は基礎的事項の協議機關となつて、豫め送附された印刷物に従つて首脳部、財政、事業、會員の4方面に就て協議され、會規則草案が可決された。文化的な團體として存在の意義を認識し熱意と努力をもつて意義ある仕事を行つて行くべく約し23時閉會。

○振替口座新設 口座番號 京都1884番 名義京星會 京都に振替貯金支局が開設されたので10月1日より上記の通り開設。大阪口座は本年未期限解約。

大阪支部・大阪天文研究會通信 (11月)

◆支部報第14號發行

10月15日附用紙1枚刷、會告欄は17日例會・委員會、20—21日の氣象天文展案内、談話室「掩蔽豫報の計算」(大連志龍須)、140部・市内104部、市外30部。

◆10月第2回例會

をぐらやにて18時半開會、百濟先生の「雙眼鏡・雙眼望遠鏡・單視野雙眼望遠鏡・立體鏡・立體比較鏡」の興味ある話は誠に有益にして、次に阪大醫學部江原勇吉氏は「眼科醫學と天體觀測」に就いて眼の構造・生理と天體觀測方面の眼の作用を講演、兩先生共雙眼鏡や立體比較鏡に顯微鏡やプレパトを持參實驗せしめられた。

次に去る6月19日皆既日食に花山第3觀測隊員として、參加した大口周作氏は皆既圏内の小學校生徒に行はしめた、「皆既日食スケッチ」の貴重なる收獲の一部を持參廻覽されつゝ批評と自己の體驗に基く感想を述べ、亦先般の來たるべき沖繩皆既日食候補地撰定の報告をされ、座談會に移り22時半盛會裡に閉會、出席者16名。

◆支部委員會開かる

例年閉會後委員のみ森永にて開催、百濟支部長より支部長辭任を申出られしにより、委員一同は極力留任に説伏したるも固く決心された支部長の心を翻し得ず、次年度よりの支部長に宮森作造先生、副支部長に前田徳次郎先生を推し、昭和12年度上半期事業豫定・會計豫算は経衡委員を任命し、座談に移り閉會す。

◆天文と氣象展覽會開催

10月20—21日兩日市立泉尾工業學校にて開催、陳列品は花山天文臺及び本部よりの天文寫眞、支部作製の天文圖、大朝の日食寫眞、大阪測候所の圖表、阪大理學部よりの隕石・隕鐵・隕鐵板、其他珍らしき保井春海筆の「天文分野圖」、140年前の純國産岩井善兵衛作の望遠鏡、100冊近き古今東西の天文圖書は場内を埋め、8櫃反射望遠鏡に投影板を取附けて太陽黒點を觀測し、兩



天文展 10月20—21日 於 大阪泉尾工業學校

日の參觀者4000人（學校發表）天文普及に資す。

◆第4回合同ハイキング催さる

第1回が京星會と大阪天文研究會との合同にて奈良奥山に催されてより、合同ハイキングは毎年春秋2回に京

阪合同の年中行事となり、11月3日の明治節には其の第4回が有意義に催された。（別掲記事参照）

◆大阪支部強化第1年度事業の回顧

1. 委員會 第1回（10年10月23日）支部強化委員會 出席者12名。
 第2回（11年5月24日）上半期事業・會計報告，下半期事業・會計豫算案合議 出席者9名。
 第3回（„10月17日）支部長更迭，支部總會準備 出席者6名。
2. 例會 12月例會（10年12月14日）來年中の天文現象（百濟），天文の研究の仕方（山本博士） 出席者24名。
 1月例會（11年1月11日）新年茶話會，素人と玄人の立場（山本博士） 出席者24名。
 2月例會（„2月8日）太陽黑點と寫眞觀測（伊達） 黃道光中の恒久光斑（笹部），保井春海の事蹟（大口），星座繪の起源（西森） 出席者19名。
 3月例會（„3月10日）㊦反射鏡の球面と拋物面㊦（坂元），㊦掩蔽觀測雜話㊦（西川），報時の話（高城） 出席者21名。
 4月例會（„4月2日）㊦恒星の光度觀測㊦（百濟） 出席者19名。
 5月例會（„5月9日）天文座談會，天體觀測會 出席者21名。
 6月第1回例會（„6月7日）㊦通俗日食講話㊦（百濟） 出席者15名。
 6月第2回例會（„6月21日）日食報告座談會 出席者17名。
 7月例會（„7月5日）㊦日食觀測より歸りて㊦（高城），㊦遠輕にての日食㊦（津田），㊦女滿別にての日食㊦（森） 出席者18名。

- 8月例会 („ 8月 5日) ㊦最近の天文學界[㊦](百濟), 日食映畫(津田) 映寫 出席者33名.
- 9月例会 („ 9月 5日) ㊦分光器の話[㊦](奥田), ㊦コロナ變動寫眞[㊦](高城), ㊦二重星の話[㊦](西森) 出席者15名.
- 10月第1回例会 („ 10月 1日) ㊦月の話[㊦](百濟), ㊦太陽系の話[㊦](西森), 天文幻燈映寫, 一般公開 出席者約 80名.
- 10月第2回例会 („ 10月17日) ㊦双眼と立體の光學機械[㊦](百濟), ㊦眼科醫學と天體觀測[㊦](江原), ㊦日食スケッチに就いて[㊦](大口) 出席者16名.

3. 支部報・支部速報 第1號(10年11月6日)1頁, 第2號(10年12月9日)6頁・附錄3枚, 第3號(11年1月7日)3頁, 第4號(2月4日, 3頁), 速報(2月29日), 第5號(3月8日)4頁, 第6號(3月29日)3頁, 速報(4月13日), 第7號(5月7日)4頁, 第8號(6月2日)3頁(兵庫縣版2頁), 第9號(6月15日)3頁, 第10號(7月3日)3頁, 第11號(8月5日・9日)2頁(和歌山縣版1頁, 第12號(9月1日)1頁, 第13號(9月28日)2頁, 第14號(10月15日)1頁, 第15號(10月31日)1頁.

4. 事 業

- A. 代理部設置 本部發賣の書籍・星圖・バッジ等の取次.
- B. 支部員所有天文圖書調査.
- C. 3月7日 花山天文臺見學會 本部・京阪兩支部合同交歡晚餐會 出席者28名 講演㊦コロナの光[㊦](稻葉).
- D. 支部員住所名簿(支部員要覽)完備.
- E. 5月19日 第3回合同見學ハイキング 本部・京阪兩支部合同參加者17名.
- F. 6月6日 神戸海洋氣象臺見學會 阪神兩支部合同 參加者19名.
- G. 6月17・18・19日 天體觀測會 一般公開參觀者約600名.
- H. 6月19日 日食觀測會 一般公開參觀者約2000名.
- I. 8月11—17日 天體觀測指導ベルセ流星群觀測キャンペーン 阪和兩支部合同參加者6名 延人員21名.
- J. 10月20・21日 天文展覽會 參觀者約4000名.

大阪支部・大阪天文研究會12月例会

1. 日 時 12月12日(土) 17時より
1. 會 場 心齋橋筋八幡筋南入西側をぐらや3階
1. 講 演 ㊦來年中の天文現象[㊦] 宮森支部長

——例により遠近より御出で下さい——